

今般の新型インフルエンザ (A/H1N1)対策について ～対策の総括のために～

(資料集)

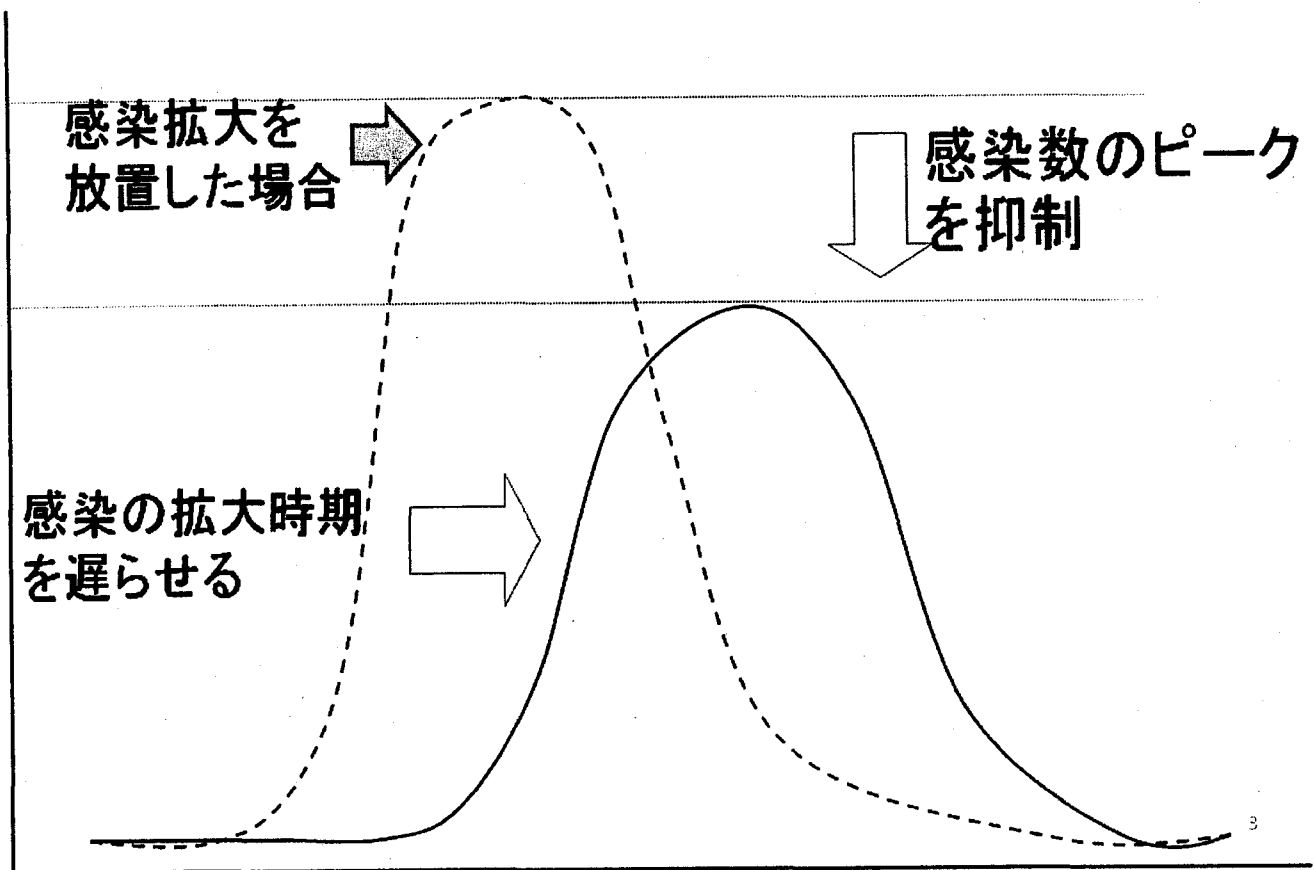
平成22年6月8日

厚生労働省新型インフルエンザ対策推進本部

対策の目標

- ① 感染拡大のタイミングを可能な限り遅らせ、その間に医療体制やワクチンの接種体制の整備を図る。
- ② 感染のピークを可能な限り低く抑える。
- ③ 国民生活や経済への影響を最小限にする。
- ④ 基礎疾患を有する方々等を守る。
- ⑤ その結果、重症者、死亡者の数をできるだけ最小限にする。

患者数の急激で大規模な増加を抑制・緩和



今回の新型インフルエンザ(A/H1N1)対策の概要

- 1 水際対策による時間かせぎ(4月から6月)
- 2 地域での感染拡大防止による時間かせぎ(5月から6月)
- 3 医療体制の整備(5月から)
- 4 ワクチン供給(7月から)
- 5 普及・啓発(4月から)

発生前に講じていた措置

- 病原性の高い新型インフルエンザ(H5N1)などを想定した「新型インフルエンザ対策行動計画」(平成17年12月)及び「新型インフルエンザに関するガイドライン」(平成21年2月)の策定
- 内閣総理大臣を本部長とする対策本部を設置することを閣議決定。(平成19年10月)
- 抗インフルエンザウイルス薬等の備蓄
- 訓練を4回実施。
- 新型インフルエンザについて、入院勧告等の措置とともに、停留等の水際対策を行うための感染症法等の改正
(平成20年5月)

I. 海外発生以降の主な流れ

(4月23日から5月15日まで)

- 4月23日 米国内での豚由来A型インフルエンザウイルスのヒトへの感染事例に関する情報の共有
- 4月24日 厚生労働省から都道府県への情報提供
- 4月25日 検疫強化、コールセンター設置
- 4月28日 WHOがフェーズ4宣言、政府の新型インフルエンザ対策本部で「基本的対処方針」策定
- 4月29日 サーベイランスの通知(症例定義)
- 4月30日 WHOにおいてフェーズ5へ引き上げ
- 5月 1日 政府の新型インフルエンザ対策本部で「基本的対処方針」改定
- 5月 8日 検疫における最初の患者捕捉(成田空港)
- 5月13日 新型インフルエンザ対策本部諮問委員会報告(停留に関する報告)

当時入手できた主な知見(病原性)

- 4月24日 メキシコにおいて死亡者多数(WHO)
- 5月 8日 MMWR(CDC)
大多数の人は感染しても軽症、しかし、健康な若年者や子どもの中で重症化や死亡の報告があり、いくつかの特徴が季節性インフルエンザと異なる。
- 5月11日 WHO、メキシコの合同調査結果発表
季節性より感染力は強い。推定致死率0.4%でアジアインフルエンザと同等。

7

当時入手できた主な知見(病原性)

- 5月13日 専門家諮問委員会報告
臨床経過は季節性インフルエンザに類似。ただし、基礎疾患を有する方を中心に一部重篤化することに注意
- 6月 2日 ニューヨーク市より臨床像の報告
入院患者341人のうち、82%が基礎疾患を有していた。
- 6月12日 WHOがフェーズ6宣言。
Moderateと評価

8

Ⅱ. 国内発生以降の主な流れ

(5月16日から8月中旬)

<6月19日まで>

- 5月16日 兵庫・大阪での最初の国内発生
5月1日の基本的対処方針を踏まえた
「確認事項」策定
- 5月22日 政府の新型インフルエンザ対策本部で
「基本的対処方針」第2次改定
厚生労働省で「運用指針」策定
- 6月12日 WHOにおいてフェーズ6へ引き上げ
- 6月19日 厚生労働省で「運用指針」改定
(検疫については「運用指針」を踏まえ順次弾力化)

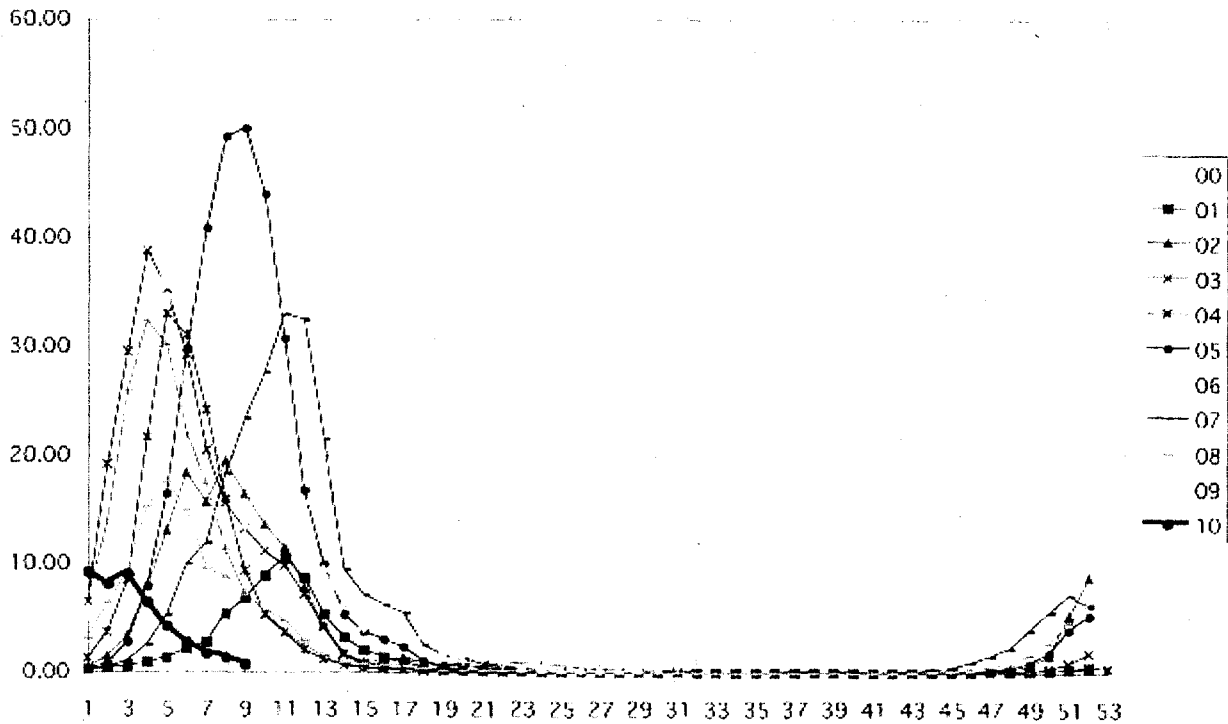
Ⅲ. 流行入り宣言以降の主な流れ

(8月中旬以降)

- 8月15日 国内で最初の死亡報告
- 8月19日 流行入り宣言(全国平均の定点報告数が1を上回る(8月10日~16日の週))
- 8月28日 流行シナリオなど医療体制の通知
- 10月1日 「新型インフルエンザ(A/H1N1)ワクチン接種の基本方針」を策定(新型インフルエンザ対策本部)

例年のインフルエンザ発生状況の推移(定点報告) 過去10年間との比較グラフ

[定点当たり報告数]



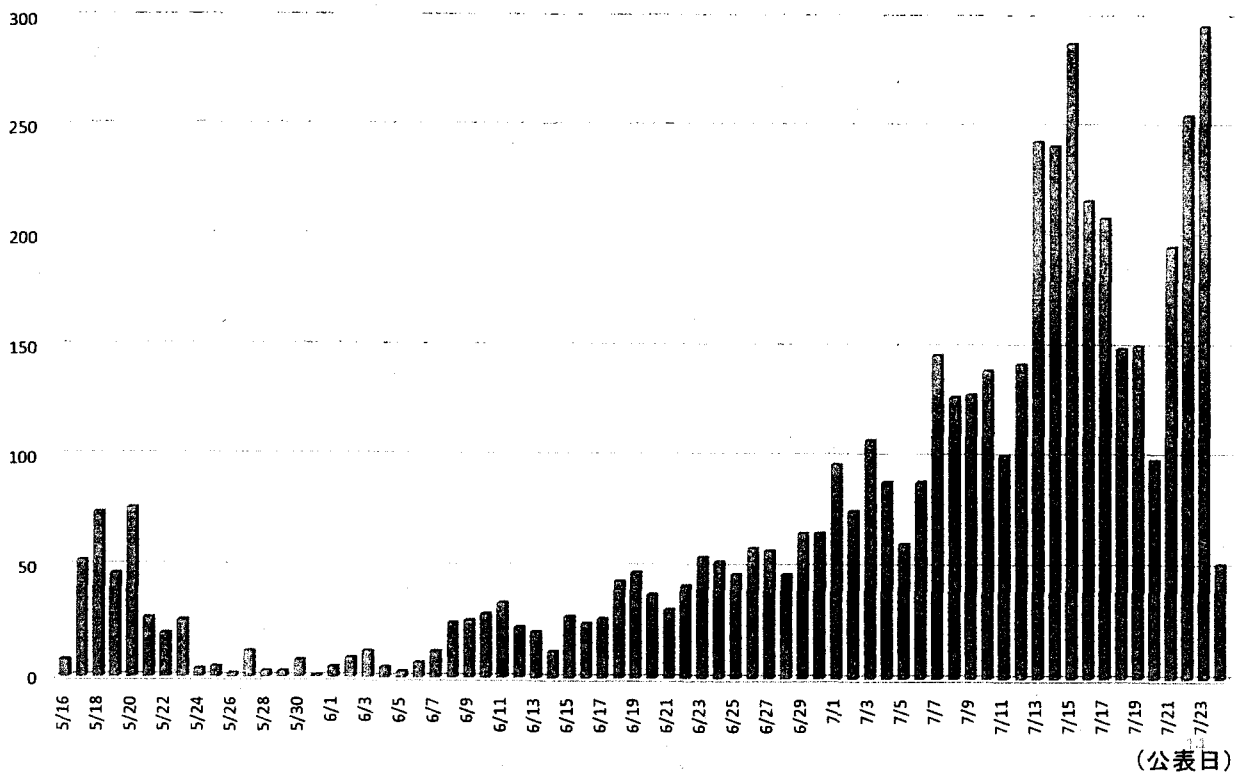
出典: 国立感染症研究所 感染症情報センター

13

新型インフルエンザ患者発生状況 n=5038

法第12条の医師の届出(全数把握)

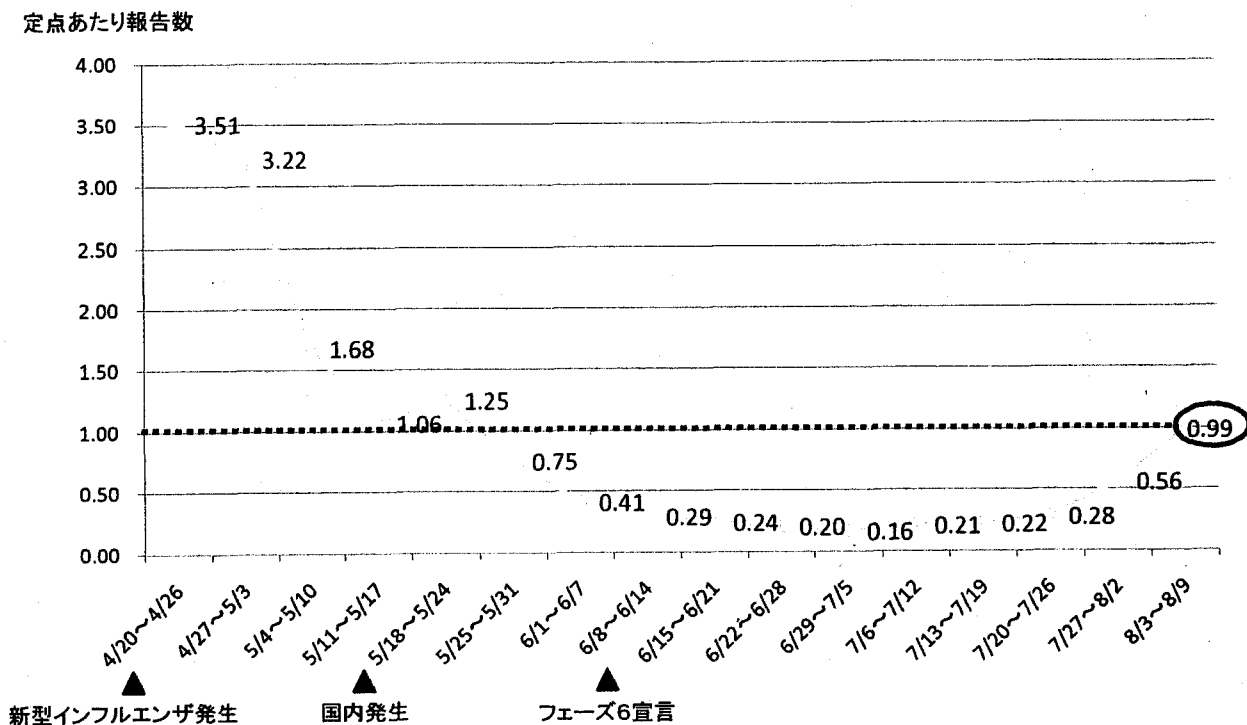
5/16~7/24



(公表日)

インフルエンザサーベイランス(定点報告)

平成21年 週別発生状況



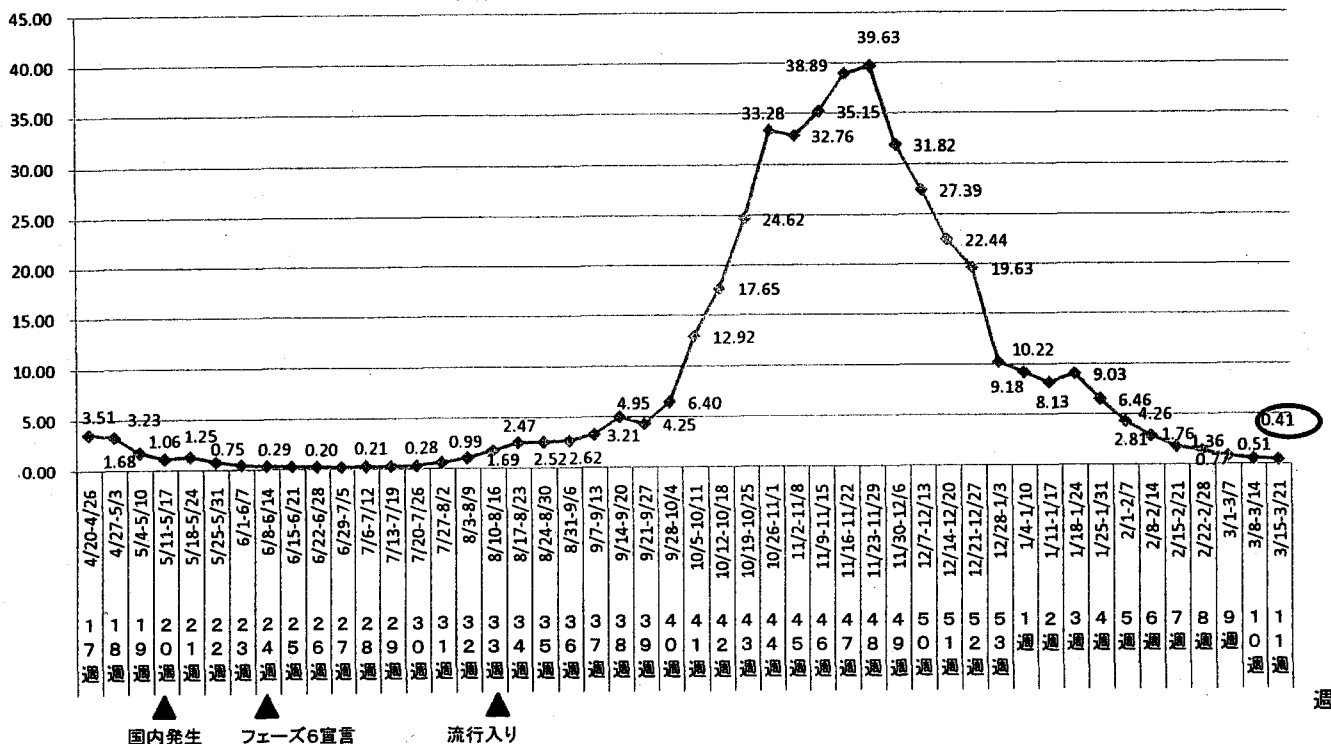
15

資料: 感染症発生動向調査(全国およそ5000医療機関(小児科およそ3000、内科およそ2000)からの定点報告)

我が国におけるインフルエンザ流行分布 (2009年~2010年)

定点あたり報告数

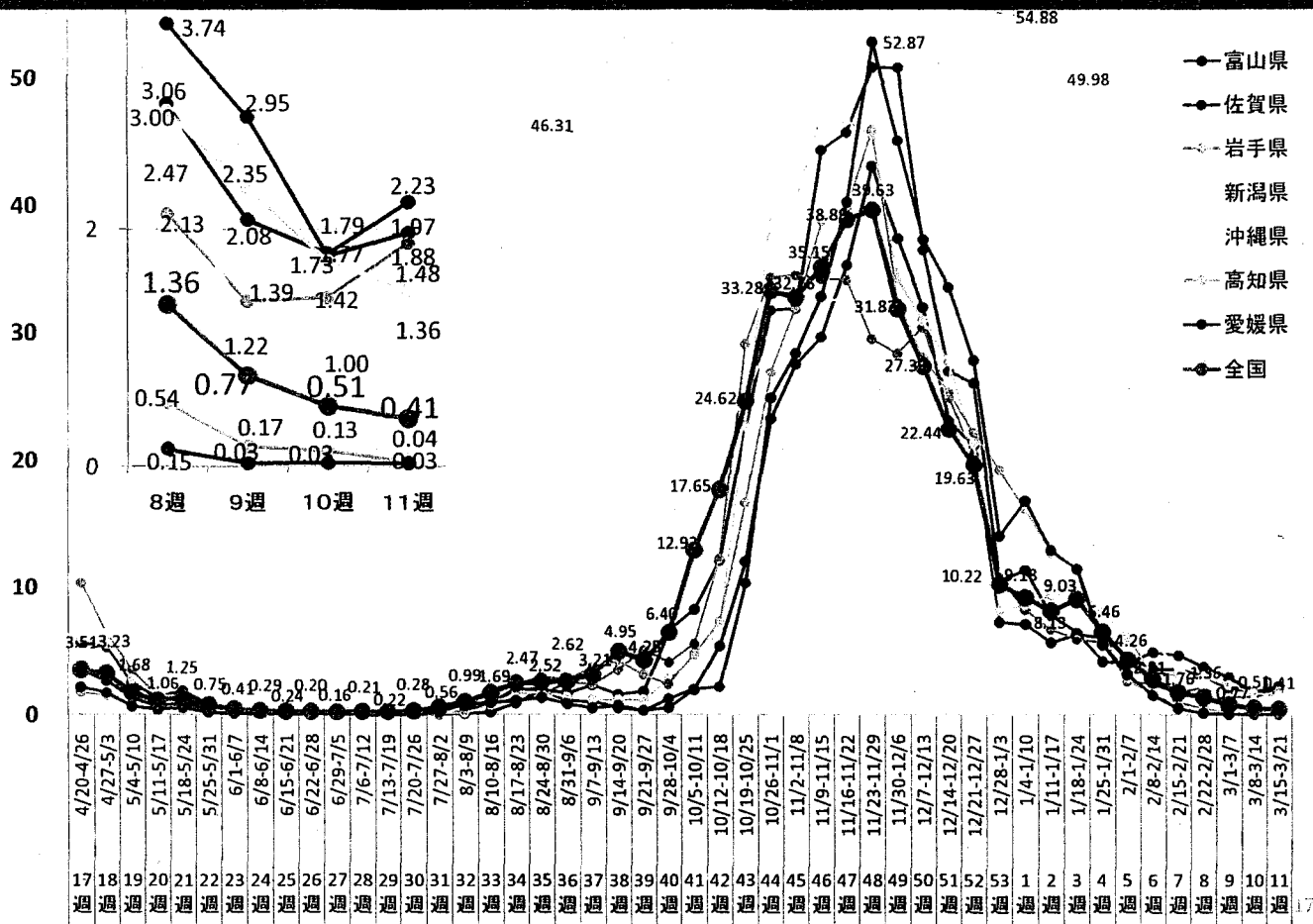
平成21~22年 週別発生状況



16

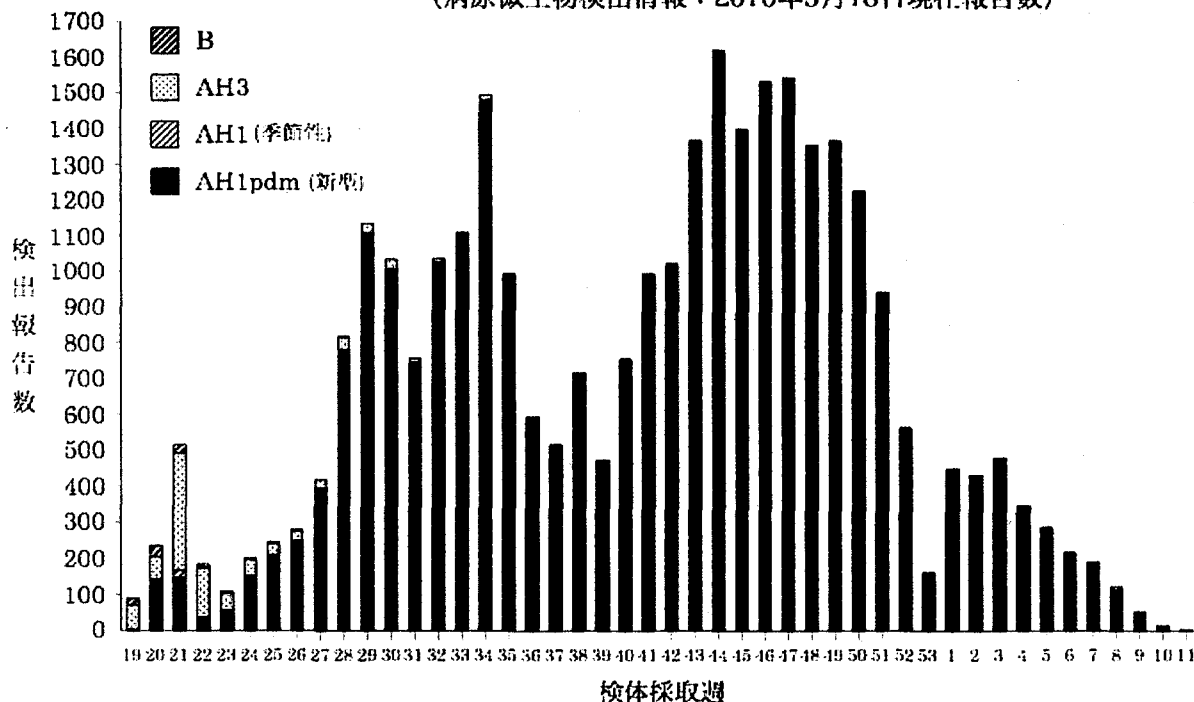
資料: 感染症発生動向調査(全国およそ5000の定点医療機関(小児科およそ3000、内科およそ2000)からの報告)

定点医療機関からの報告数上位5都道府県及び下位2都道府県



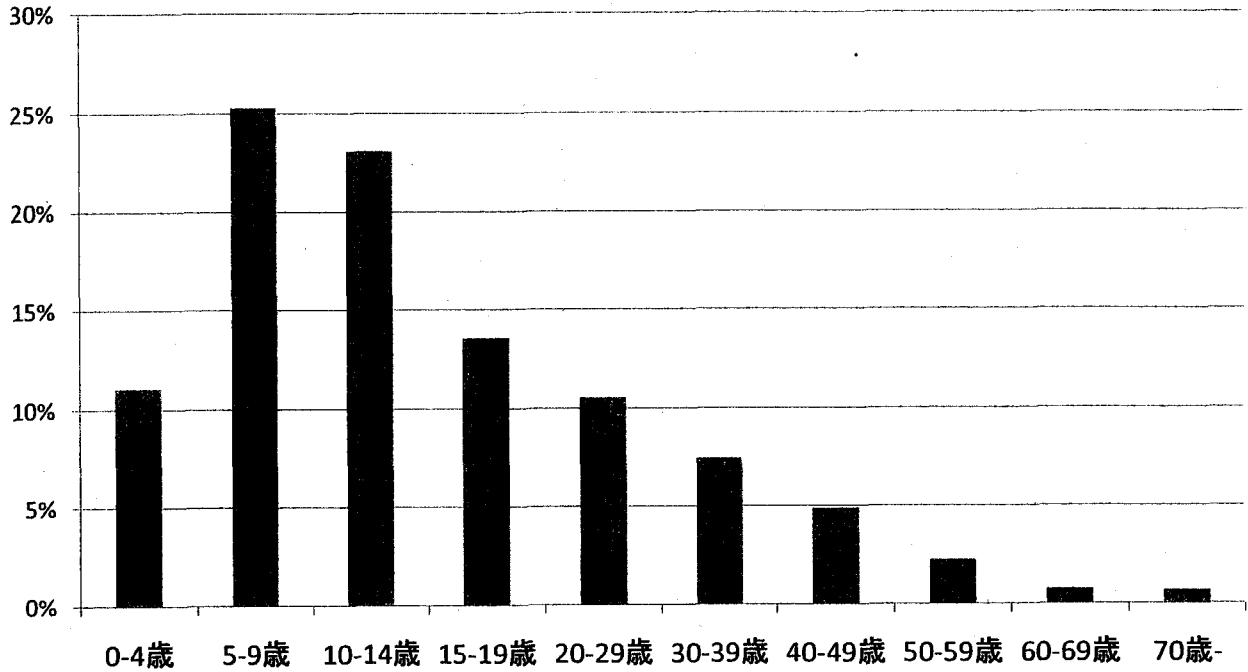
ウイルスサーベイランス

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2009年第19週～2010年第11週
(病原微生物検出情報：2010年3月18日現在報告数)



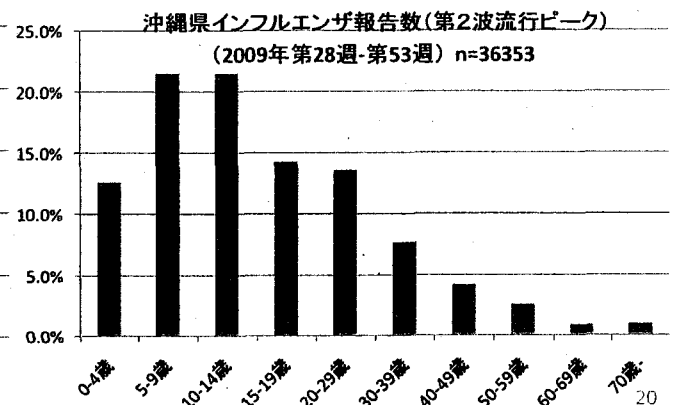
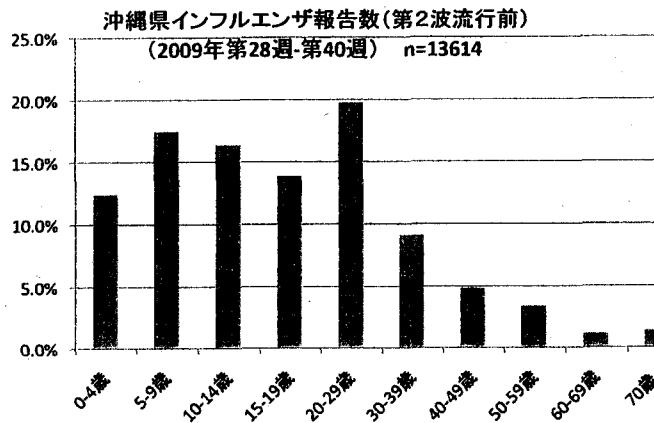
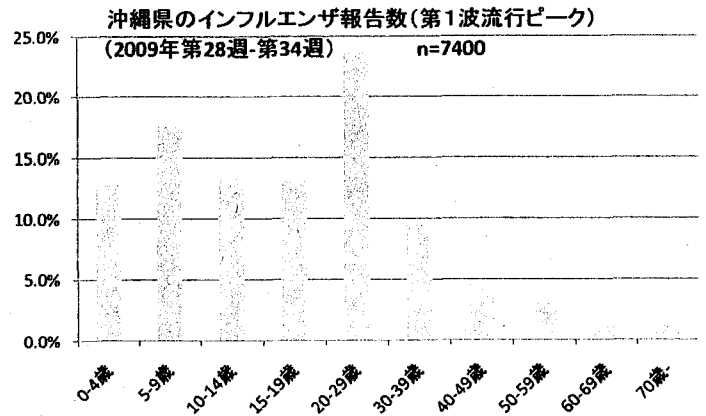
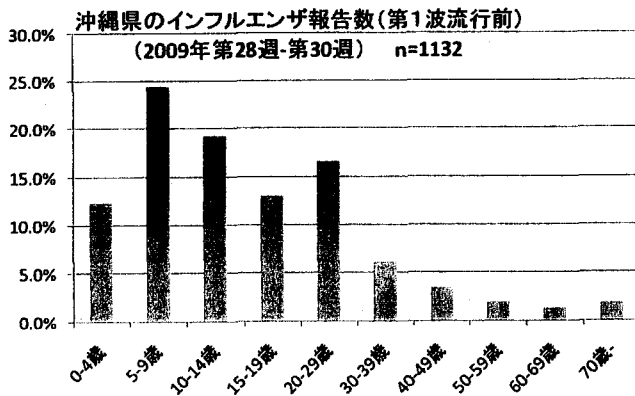
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離・検出報告を図に示した
(データは現在週および過去の週に遡って追加が見込まれる)

我が国のインフルエンザ推計受診患者数(暫定値)(年齢群別割合) (2009年第28週-2010年第10週)



出典国立感染症研究所 19
<http://idsc.nih.go.jp/idwr/douko/2010d/10douko.html>

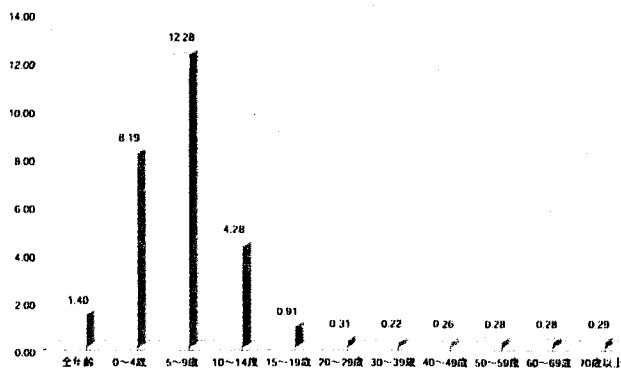
沖縄県のインフルエンザ推計受診患者数(暫定値)(年齢群別割合)



我が国の入院率(年齢群別)

入院率 (人口1万人当たり)

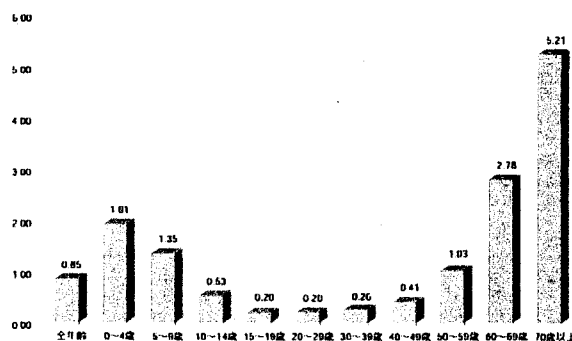
図5. インフルエンザの年齢群別入院率1(人口1万人当たり)
(2009年7月28日~2010年3月16日)



* 2008年10月1日現在推計人口

入院率 (推定受診患者(暫定値)1,000人当たり)

図6. インフルエンザの年齢群別入院率2(推計受診患者(暫定値)1,000人当たり)
(2009年7月28日~2010年3月16日)

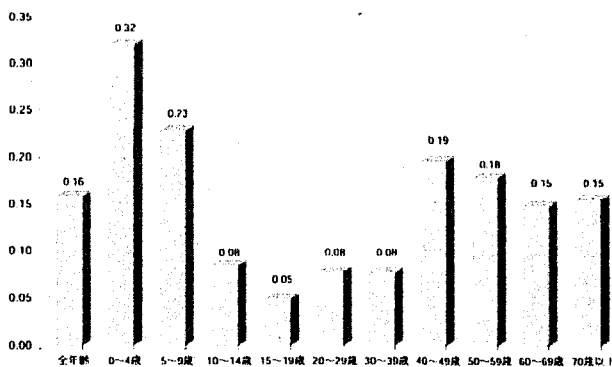


出典: 国立感染症研究所

我が国の死亡率と致死率(年齢群別)

死亡率 (人口10万人あたり)

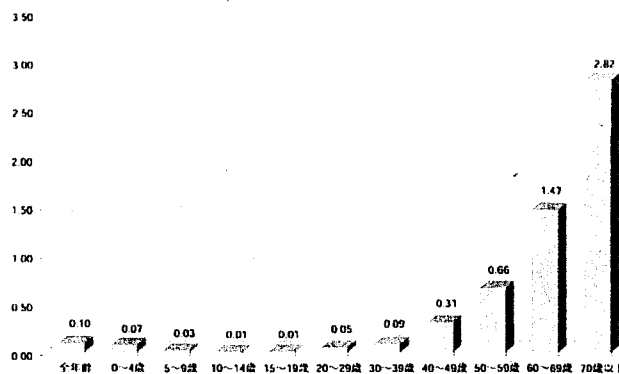
図7. インフルエンザの年齢群別死亡率(人口10万人あたり)
(2009年7月28日~2010年3月16日)



* 2008年10月1日現在推計人口

致死率 (推定受診患者(暫定値)1万人当たり)

図8. インフルエンザの年齢群別致死率(推計受診患者(暫定値)1万人当たり)
(2009年7月28日~2010年3月16日)



出典: 国立感染症研究所